

1月定例活動「ツツジの園づくり植生管理」

眞弓 浩二

春、それはオアシスの森がひととき美しく彩られる季節です。白い産毛につつまれた淡い萌葱色のコナラとあいまって、薄紫や薄桃色の彩りを与えてくれるコバノミツバツツジやヤマザクラなどの花は、我々日本人の胸をなぜか弾ませてくれます。

1月24日は、そんなほかほか陽気の絶好の柴刈り日和となりました。今回のテーマは、梅林の小径から西に続く尾根筋にある、コバノミツバツツジ・ヤマツツジ・モチツツジの群生地、ツツジを引き立てる植生管理を進め「ツツジの花園」をつくらうというものでした。かつて相生山周辺の村人がこの森を活用し、手入れが行き届いていた頃、春には麓の村から相生山がピンク色に映って見えたとか・・・。そんなイメージを抱きながら我々は作業を進めました。

今回は講師に林進氏（岐阜大学名誉教授）をお迎えして、この管理作業の意義を学びながらの活動となりました。



林氏の指導でツツジの園づくり

林氏の説明によれば、ツツジの花は葉が変化したものといえ、その変化には枝に蓄えられた炭素の量が作用しているということ。照度不足で光合成量が低下すると炭素の供給量が減少し、花芽の分化が進まなくなるといふメカニズムを学び、明るい森に花が咲くという現象に、なるほど！と合点がいったのでした。

また、この日の活動はリコーグリーンプロモーションの助成対象でもあり、リコー各社から20名もの参加者があり、春の森に賑やかな声が響きました。

ツツジに覆い被さるヒサカキやソヨゴ、コナラなどを丁寧に除伐していくと、徐々にツツジが顔を見せ始め、作

業が進むにつれて辺りは一面ツツジの園に・・・。こんなにツツジが多かったのかと改めて驚かされました。

森の一面に伐った柴材で枠をつくり、その中に枝葉をこまかく裁断し集積すると、虫たちのすみかの出来上がりです。その造形は大きな鳥の巣のようで、中に寝っ転がるととてもリラックスでき、いい気分を味わうことができました。



柴材で作った大きな鳥の巣

今回の作業は、来年の春の花付きに影響するとのことで今からその成果が楽しみです。でも作業後の4月10日にこの場所を訪れると、至る所でコバノミツバツツジが咲き乱れ、今まで見えなかった花が気持ちよさそうに春の日差しを浴びていました。

特別活動「ウッドデッキ完成！」

村田 英二

4月17日（土）の特別作業と24日（土）午後の作業により道具小屋の横にウッドデッキを製作しました。

デッキ材料はメープル（トウカエデ）の角材で、カナダから日本にアルミ地金を運搬する際のスペーサーとして利用されたものです。

これまで捨てられていたものを、今回小池さんの斡旋で大型トラック一台分無料で相生山まで運んで頂きました。

デッキの土台には市電の敷石（御影石）の上に川の字に土台を組み、その上に角材を並べました。



敷石の上に桁となる角材を並べる

デッキ材はビスと金具でしっかり土台に固定して、さらに長持ちするように土台とデッキ表面には防腐剤を塗布しました。



安全のため床材をしっかりと固定



最後に防腐剤を塗布して完成

野波さんの指示のもと十分な施工管理により、立派なデッキに仕上がりました。

今回の作業はいつもと違い全くの大仕事でしたが、皆さん楽しそうに作業に従事されていました。

今後はテーブルや椅子も作る予定であり、作業の休憩時間やお昼休みに憩いの場を提供してくれるものと期待しています。



▲締めはやっぱりビールで乾杯！（この至福のひとときのために汗を流した参加者たち？）